

精神障害者の就労支援におけるアセスメントの重要性

—従来モデルと IPS モデルの視点の統合—

仲村 信一郎 (障害者職業総合センター 研究部門)

1. 問題の背景と目的

米国では医療も含めた多職種チームに就労支援スペシャリスト等が加わった援助付き雇用の IPS(Individual Placement Support ; 個別紹介とサポート)が効果を上げており、日本でも国立精神・神経センター精神保健研究所において試行 (IPS-J) されている。IPS では、職業準備性をアセスメントしない迅速な求職活動が効率的であるとの考えがある。IPS では、希望すればどんな重度の精神障害でも就労支援の対象となる。筆者は、精神障害の様態に応じた適切なサービスを提供することが大切であり、どんな重度の精神障害者でも、就労支援の対象にすることには疑問を感じた。

また、香田ら (2005) によれば、「従来モデル」では、ストレス脆弱性モデルでできないこと (弱み ; ウィークネス) に注目しており、「IPS モデル」はリカバリーモデルで (強み ; ストレngth) に注目していると考えている。ここでは、「強み」と「弱み」、さらに生活での「機会」と「脅威」の両面の視点を統合したアセスメント法を考える。

2. 方法

長崎ら (2006) の国際生活機能分類 (ICF) に基づいたアセスメントと企業分析に使われる SWOT 分析 (swot analysis) を組み合わせて、「従来モデル」と「IPS モデル」の両モデルを統合する視点による就労支援のためのアセスメント表を作成する。

(注 ; SWOT 分析とは、主にマーケティング戦略や企業戦略立案で使われる分析のフレームワークで、組織の強み (Strength)、弱み (Weakness)、機会 (Opportunity)、脅威 (Threat) の 4 つの軸から評価する手法のことである。)

3. 結果

ICF 構成要素を各アセスメント項目として考え、SWOT 分析の観点からに再構成を試みたのが右のアセスメント表である。

4. 考察

表の項目をしっかりと把握する就労アセスメントを行い、リスクマネジメントをしながら、就労にチャレンジさせることが必要である。

IPS の考えのように、対象者の状態に関らず希望のみを重視したアプローチは、就労移行段階での停滞を打破するにはいいかもしれないが、職場定着までには結びつきにくいのではないのではと考えられる。

表. ICFの枠組みをSWOT分析視点から再構成したアセスメント表

(健康状態 : 変調または病気) ・受診、服薬状況 (主治医より) ・受診に対する本人・家族の認識	
S : 強み (Strength)	W : 弱み (Weakness)
(心身機能・身体構造障害) ・SST等のリハビリテーション ・意思疎通能力不足の工夫 ・早期警告サインを自覚している	(心身機能・身体構造障害) ・病気や障害の程度 (認知機能障害) ・予後の経過が不安定
(個人因子—肯定的) ・精神的回復 (リカバリー) ・本人の課題解決能力 ・生活歴・生活習慣が整っている ・家族関係が良好 ・精神安定している (GAF尺度)	(個人因子—否定的) ・疾病や障害の受容が不十分 ・生活リズムが整わない ・家族関係に困難
(活動) ・生活機能の個人的観点 ・日中の活動状況 (移動・セルフケア等) ・原則的に学習なおすことが可能 ・日常生活維持力がある	(活動制限) ・個人が活動を行う時の困難 ・日常生活上はIADLの制限、あるいは社会生活上役割の制限
O: 機会 (Opportunity)	T: 脅威 (Threat)
(参加) ・生活機能の社会的観点 ・友人などとの交流や、外出の状況 ・支援者は、良質な情報を適切な方法で伝達	(参加制約) ・生活に関する場合に経験する困難 ・社会的な偏見 ・家族及び本人の内なる偏見
(環境因子—促進) ・家族に対する心理社会教育 ・家族の協力体制 ・主たる支援者の状況 ・居住環境が良好	(環境因子—阻害) ・家族の高い表出感情 (high-EE) ・適切な支援が受けられていない ・居住環境が悪い

5. まとめ

医療や福祉的な観点では、社会的なニーズとのマッチングという就労支援の観点が忘れがちであるが、SWOT 分析の観点を入れれば、本人の仕事につながる「強み」や「機会」を見つけ支援すること、本人の障害や疾患による「弱み」や「脅威」に対してリスク管理やケースマネジメントを行うことの両面を行うことが重要であることが明らかになる。モデルに関らず、職場定着の促進のため、上記の表をアセスメントに利用して、ご指摘等頂ければ幸いである。

・ 文献

香田真希子,他(2006) : ACT-J における地域生活支援の実践からみえてきたサービスのあり方～従来のサービスとの相違点～,「作業療法ジャーナル」 vol.40 No.11,pp1157-1160

長崎和則,他(2006) : 事例でわかる！精神障害者支援実践ガイド,日総研出版

仲村信一郎,他(2007) : Letter to the Editors 就労支援におけるアセスメント,「作業療法ジャーナル」 vol.41 No.3,pp249-251

野中猛(2006) : 精神障害リハビリテーション論—リカバリーへの道—,岩崎学術出版